

保護者各位

令和2年5月26日

理事長 伊藤 直樹

保育園こども園での新しい保育様式について

例年ならば、親子遠足など初夏の季節を楽しむことや保護者会を通してお話をさせていただいている時期ですが、新型コロナウイルス感染症のために2か月近く登園自粛にご協力いただき一切の行事を見送る事態となりました。この間の皆様のご協力に感謝申し上げます。

さて、厚労省では新型コロナウイルス感染症の第二・三波を予想し、感染拡大を防ぐために「新しい生活様式」を発表しました。基本的な行動様式の変容が求められています。しかし、「新しい生活様式」を求められても保育園こども園での普段の生活は密閉・密集・密接の3蜜を避けることができません。

例えば、保育室は密閉することはありませんが、これからの季節、冷房を使い、窓を閉めて室温を下げ熱中症を防ぎます。冬季も換気はしますが寒さを防ぐために暖房を使い保育室を温め体調を維持します。

子どもたちの遊びの多くの時間は人と関わるものです。年齢が上がるほど関わる人数は多くなります。密集は子どもたちの発達過程に重要な要素でもあるので取り除くわけにはいきません。その上、保育室最低基準による面積は幼児の場合、一人当たり1.92㎡です。この中には遊具や机椅子を置く面積も含まれます。保育士の配置は3歳児15人、4・5歳児30人に一人という配置なので一人ひとりを大きく離し少人数での保育することもできません。

乳児保育では、抱っこをはじめとして、保育者と子どもの距離は家庭と同じ距離感です。乳児に哺乳する時どんなに顔を離しても50cmの距離で話しかけることになります。このように幼児クラスでも乳児クラスでも、保育者も子どもも一定の距離を保つことはできるかもしれませんがソーシャルディスタンスという2mを確保して保育はできません。

また、送迎時間は保護者・職員・子どもが一気に密集する時間帯ですが、保育園の登降園時間を予約制や外で待機するといった方法も難しい現実があります。保育園こども園では3蜜を解決する方法は無いと言っても過言ではないと申し上げるほかありません。

保育園こども園での「新しい生活」については、今後に感染症に対しての検証やワクチン開発などにより順次お伝えすることが変わっていくかと思いますが、基本はインフルエンザ予防同様の対策を園では行っていくことになります。

そういった中で、新たな生活様式を取り入れるために、私たちに保育者と保護者が子どもたちにできることはどのようなことでしょうか。「新しい生活様式」に照らし合わせてみました。

*一人ひとりの基本的な感染対策として（抜粋）

- ・身体的距離を保つ⇒保育中は、子どもも保育者もソーシャルディスタンス（最低1m）を保つことはできません。ご理解をお願いいたします。
- ・マスクを着用する⇒乳幼児はマスク着用を徹底できません。また、保育者も保育に影響する場合はマスクを外します。ご理解をお願いします。

*日常生活を営む上での基本的な生活様式として

- ・こまめに手洗い、手指消毒をする⇒入室の前に大人も子どもも必ず行う。手洗いは石鹸を使うように声掛けをする。
- ・咳エチケットの徹底⇒手で覆うことなくハンカチや袖を使って飛沫の拡散を防ぐことを守る。
- ・3密の回避⇒送迎の時間を混雑する時間をさけるなど工夫する。受け入れ引き渡しの方法を工夫していきます。
- ・朝の検温、体調のチェックを必ず行う⇒発熱、風邪の症状がある場合は登園を控える。解熱後24時間経過後の平常体温を登園できる目安にしてください。

《行事》

保育の結果を保護者に見ていただくという行事は、一人ひとり子どもが成長を保護者の方とともに喜び合うものに変化し、現在、園では、子どもも参画し行事を作り上げていくというものになってきています。この基本的な考え方は変わっていかないと考えますが、大集団で行うものから、より一人ひとりの子どもの姿が表わせる方向にシフトすること。いずれはそうなると思っていましたが感染症対策となるばかりでなく、子どもの主体性・自発性を引き出すことができる行事になっていきます。また三密を回避するためには、保護者の皆様の参加の有無を含めて検討していきたいと考えております。

《保育》

小学校では、感染を防ぐためにプールを使った授業が中止になりました。しかし、水を使った授業が感染源になるのではなく、その前の更衣室での着替えの時に密集することが原因で授業そのものを中止にしています。保育園やこども園でも早々とプール遊びだけでなく水遊びを中止してところもありますが、日常の保育は、この密集を防げない状況とするとかえって屋外で過ごすこと。“汗疹”や“とびひ”を防ぐために冷房の入った部屋で汗をかかずにいるより新陳代謝機能を助長することなど成長のために良いのではないかと考えます。しかし、現時点ではコロナウイルスの潜伏期間が2週間あるいは1週間。発熱4日以上で受診検査から風邪症状でも疑われる場合は検査をする。乳幼児は感染しても軽症といわれていましたが、死亡例が発表されたり、川崎病のような症例が発表されたりといったように変化が報告されています。コロナウイルスの本当の姿が分かるまでは慎重にならざるをえませんが、目に見えるような保育の変化はないとお考え下さい。同様に、園外保育や誕生会、季節や習慣化された行事、保護者会や保育参加・参観は3密のリスクを抑えて対応して行きます。

園としては、このように保育を展開していくことになりますが、行事や保育によっては保護者の方に参加するかどうか選択していただけるよう工夫してまいります。

最後になりますが、この2か月間ご家庭で子どもと過ごされたことが、ご家庭でも保育園でももちろん子どもにもプラスになるよう自粛明けの保育に向けて準備しています。そうはいつでも長い間登園できなかった子どもたちは以前の生活に戻るには時間がかかります。再開まであと数日ですが、ご家庭でも登園の準備として起床や食事といった生活習慣を非常事態宣言以前に戻して生活していただくようお願いいたします。